活学への誘い　Life is about creating yourself.

Marketing in English

宮本　多幸

突然ですが、みなさんは近畿大学初代総長世耕弘一先生の銅像が何処にあるかご存知ですか？（そうです西門から旧本館に向かい10メートルほど左斜め方向に歩くと精悍なお顔の先生に出会えますよね。）わたしは時々、先生の銅像の前に立ちどまり、大志を抱き、努力を惜しまず、挑戦し続け、力強く生きられた先生を思うことにより「活力」をいただいています。（まぁたまに周りの人に変な目で見られているような気もしますが…）

みなさんには、わたしにとって世耕初代総長のような「ロール・モデル」となるような人物はいらっしゃいますか？ご存知かと思いますが、「ロール・モデル」とはある生き方をとおして、人にそのようにありたい・生きたいと欲しさせ、人の思考や行動に強い影響を与える人です。わたしには東西を問わずたくさんの「ロール・モデル」がいます。その一人が長年の海外生活を終え帰国した時に出会った安岡正篤（まさひろ）氏です。（正確には彼の書籍になりますが。）

残念ながら世耕先生同様、安岡氏も既に昇天なされておられます。しかし彼が残した多くの書籍は未だに広く読まれているようです。例えば、本学中央図書館でも安岡氏の著書、関連書籍の蔵書は30冊超を数えます。（「人間の生き方」や「人間学のすすめ」などはこれからのAI時代、大変化の時代に向けて、みなさんに多くの「人生の指針」を与えてくれることでしょう。また本学中央図書館にはありませんが、安岡氏がおおよそ50年前に当時の青年たちに送ったメッセージ「青年の大成：青年は是の如く」を読み、50年前、現在、そして50年後の日本について考えてみることもみなさんにとって有意義な、必要な思考活動であると思いますよ。）

わたしの特にお気に入りは安岡氏の活学についての書です。「活学」とは、「学んだことを知識のみに留めず、知恵として発展させ、実践することである。」（PHP Interface）実はこの十数年、東西を問わずこの活学・実学の必要性が大学教育の場で盛んに言われています。ただ物事を知っているだけではなく、それらの知識をいかに日常生活の中で、身の回りにある問題の分析、解決に活用していくことができるかということです。（英語で言うinnovation（アイデアの新しい活用）のようなものです。）

わたしにとっては「生きること」その活動が「活学すること」です。わたしの学生指導・教育スタンスは学生の専門知識の習得はもとより、学生が自身、そして社会のための責任ある活学者となることのお手伝いです。この意味では近畿大学建学の精神（人格の陶冶）－「人に愛される、信頼される、尊敬される人づくり」－と一致するものと信じます。学生のみなさんに常にお願いしていることは、大学の学びにおいてただの「情報・知識の消費者」で終るのではなく、主体性、疑問を抱き物事について多種多様な情報源から情報を集め、それらを偏見なく客観的に比較、分析、吟味する、または既存の知識を自分自身の生活、経験の中で吟味し・自省し新たな知見・知恵を求める「活学者」となる努力・挑戦を始めることです。

24年に渡るオーストラリアでの海外経験を

積んで日本に戻って来たわたしには、この国に明るい未来は見えません。学生たちに良く問いかけることなのですが、「何故いまの日本は昔の輝き・活気を失ってしまったのか？」ここで手を止め、じっくりと自分なりにその理由を5分間ぐらい考えてみて下さい。（ここですぐに分からないとあきらめる（逃げる）のではなく、今ある情報、知識を持って自分に一生懸命問い掛けてみて下さい。）

「なぜ？」なのか！

「なぜ？」なのか！

「なぜ？」なのか！

（やはり、物事は3回は自分に問いかけ続けないと良い答えは出てこないものです。少し冗談じみた話になりますがこんなことがありました。ある時わたしのある問いかけにあるゼミ学生が、「そんなこと一日考えても分かりません！」と答えました。私の突っ込みは「一日で答えが出ないのであれば、もう一日、もし必要であれば3日間考える必要があるのでは？また、もし十分な情報・知識を持ち合わせていないのであれば、自分で情報を探し求めたり、専門家や人生の先輩たちに意見を聞いてみては？」でした。ここで何を言いたいかと言うと、「効率だけを求めた受験勉強」ではなく、これからの人生においては、効率が悪くても、答えが簡単に見つからない問題について考え続けなければならないことがあります。）

上記の「なぜ？」の問いかけの後には、「どのように？」問題を改善していけば良いのか？そしてそのためには「なにを？」しなければならないのかを問い続ける必要があります。この「なぜ？―いかに？―なにを？」の思考モデルが一般的な問題解決や経営戦略プロセスの基盤をなしていますので、是非みなさんも日々の生活の中で活用してみて下さい。「活学」を始めると自然と「思考力（特にクリティカル思考力）」と「教養」が身についていきます。（特に、在学中は「教養の修得」について真剣に取り組んで下さい。現在3つのＩＩＰ専門科目をＩＰ3回生と留学生の混合クラスで教えていますが、「日本人大学生」の教養と問題・目的意識の持ち方という弱点は留学生と比較すると顕著に現れます。）また、あと1年ちょとで就活を始めるみなさんに是非考えてもらいたいことは、人口知能（Robotic Process Automation）と絡めた「10年後、20年後、30年後、40年後の世界の中の日本」と「その環境でどのように生きていくか？」ということです。

「これからの時代を生き抜くための地力」を在学中に身に付けたい学生さんへのアドバイスは2つ。まずは、「できない。」、「時間がない。」、「面倒くさい。」という3つの典型的な逃げの言葉を使わない。まずは「できる」か「できない」かは物事やってみないと分からないことが多々あります。最初から「できない」と決めつけてしまうとなにもできません（逃げ続けると、最後には逃げ場がなくなります。）もう一つは、無味乾燥な受験勉強時代から続く記憶中心の学習習慣・考え方を捨て、「主体性」、「好奇心と懐疑心」、「本質の追求」から起こるエネルギッシュな学習習慣と能力を身に付ける必要があります。例えば読み聞きした情報を鵜呑みにする（例えば、××先生／先輩が××と言った）のではなく、「なぜ？」という疑問、「ほんまかいなぁ？」という懐疑心というフィルターを通し、まずはその根拠の信憑性、また異なる視点（まずは「主観」対「客観」）から物事を多角的・多元的に理解しようと努力することにより、初めて活学者としての階段を登って行くことができます。

是非日々の生活の中に明確な目的意識をもって活動してください。例えばみなさんの日常生活の問題を講義で新しく学んだコンセプトや理論を用い、理解、説明、またその結果を予測してみたり、いかにそれらの問題をより上手く解決することができるか模索してみる。実際、経営学やマーケティン学分野で学ぶ理論のほぼすべてのものは、個人のレベルで（自分を「組織」や「商品」に置き換えてみると）有益に応

用・活用できるものです。自己というレンズをとおし、自己の経験というコンテキストの中で新しく得られる情報・知識を活用・応用することによって初めて、それらを抽象的な知識ではなく、知恵へと昇華させることができます。またこのことはみなさんの英語学習にも通じるものです。ただ TOEIC などの英語テストのための勉強だけでは「使える英語力」は身につきません。やはり毎日英語に触れ（インターネットで英語ウェブサイトで情報を収集、英語の YouTube を視聴、英語村のアクティビティへの参加、留学生との交流など）、自分の知っている英単語と文法や Youtube や留学生から聞いたフレーズなどを駆使し英語で話す・書く努力をして初めて「使える英語力」が身につくものです。何事も努力なくして成就できるものはありません。）

わたしのゼミに応募するしないは別として、是非在学中に学ぶこと（自発的な学び）の喜びを発見し、活学する力を身に付けてください。語学力といっしょで、活学をとおして得られる「経験知」はみなさんの人生の選択肢を増やし、みなさんの人生をより豊かなものにしてくれます。本学は養殖マグロのおかげて世間には広く知られ、認められるようになってきました。しかしいつまでも養殖マグロのお世話になっているわけにはいけません。経営学部生として養殖マグロにはできない、みなさんにしかできない挑戦、「ワクワクして生きる活学の人生」なんていかがですか？「人並み」ではなく、人とは違った考え方、生き方、輝き方の追求。就活に向け３年次に１年間真剣に悩み、考え、行動すれば人間は大きく変わることが出来ます。かならず人間力が磨かれます。みなさんもご存知のように日本は多くの問題・課題を抱えています。「地盤沈下」が続く日本の再生には今まで以上に多くの大志を抱き、活学し、行動できる若者が必要です。わたしは「日本をこの活学ゼミから変える！」「日本を近畿大学から変える！」という心意気でゼミ学生、また担当科目の学生の指導をしています。是非みなさんも「わたしが、俺が、日本をかえる！」という大志を持ち、残された２年間、意義のある努力を重ね、自己成長のためにいろいろなことに挑戦してみてください。このまま行けば日本の将来は決して明るいものではありません。しかし過去と異なり、未来・将来は「かえていく」ことが出来ます。

本学勤務も今年で9年目になりますが、なかなか学生さんにわたしのメッセージ・警告が届かない（ＩＩＰ専門科目教員ということで多くの学生さんと接する機会がないということも原因なのですが…）ようで日々苦心しています。しかし、ここであきらめるのではなく、世耕弘一先生が掲げた「建学の精神の実践」を天命とし、一人でも多くの本学経営学部生の「幸福な意義ある人生」の実現に少しでも貢献できるようこれからも精進していきます。では最後になりますが、是非「活学者としてクリティカルに考えること」と「新しいことへの挑戦」を始めてみて下さい！

“Life is about creating yourself.”

宮本　多幸
〔みやもと　ただゆき〕
准教授

担当科目	Marketing, International Business, Tourism
出身大学	Curtin University (PhD)
主な著書・論文	・「Managing Services」（共著）Cambridge University Press, 2005 年 ・「Authentic Tourism Appeal as the Driver of a Convention Attendee’s destination Loyalty: Insights from two Japanese regional conventions」（共著）ResearchGate, 2015 年
好きな言葉	Continuous effort – not strength or intelligence – is the key to unlocking our potential.